



「いきものつながり  
アート展」のお知らせ

いきものアート作品で、子どもから大人まで自然への関心を深めていただけるよう、国際生物多様性年である今年第3回となる「いきものつながりアート展」を行います。

本展には、日野市在住の造形作家、松村しのぶさんが第1回(2006年)、第2回(2008年)に続けて作品の出版をします。

松村さんは東京水産大学(現・東京海洋大学)在学中より、図鑑や児童書などに動物画を描き始め、その後、(株)海洋堂に入社。造形作家として活躍されています。現生動物から恐竜などの古生物まで「いきものならなんでも造るよ」がモットーで、イベントや博物館などの展示物のほか、「チョコエッグ」のおまけフィギュアなど、多数の作品の造



カワソンのフィギュア

形・監修をしてこられました。

2008年5月には、鳥と緑の日野センター(WING)で作品展を開催、2009年3月には同じくWINGにて「いきものアート体験教室」の講師として、粘土を使った野鳥の立体模型づくりを子どもたちにもレクチャーして下さいました。

松村さんが出版する「いきものつながりアート展」は、過去2回とも品川区大崎のミツムラ・アート・プラザで開かれ、毎回1,000人を超す人々が訪れ、好評をいただきました。今回は初の巡回展として東京と長崎の2会場を回ります。大小の島々が連なり、日本の自然環境のエッセンスが詰まった長崎をイメージした「海と山のはざま」をテーマに、多くの企業・団体の協力・協賛を得て準備を進めています。

松村さんをはじめ、第一線で活躍する、ジャンルの異なる作家6人のコラボレーションにご期待ください。ご来場をお待ちしています。

〈東京での開催概要〉

●名称 「第3回いきものつながりアート展」

●会場 ミツムラ・アート・プラザ(東京都品川区大崎1-15-9、JR大崎駅より徒歩6分) 入場無料

●会期 11月12日(金)～11月21日(日) 10時～18時

●作家 大田黒摩利(絵画)、落合けいこ(ぬいぐるみ)、鈴木勉(ボードカービング)、中川雄三(写真)、松村しのぶ(フィギュア)、山村日和(ステンドグラス)

●主催 いきものつながりアート展実行委員会、(財)日本野鳥の会

●協賛 (株)アイニー、カシオ計算機(株)、(財)黒田奨学会、サントリーホールディングス(株)、東京海上日動火災保険(株)、トヨタ自動車(株)、ニコンビジョン、三菱電機(株)、三菱UFJ信託銀行(株)、光村印刷(株)ほか(50音順)



第2回の時の様子

お問合せ：日本野鳥の会  
鳥と緑の日野センター  
(WING) 渡辺  
電話：042-593-6877

身近な水環境の全国一斉調査に参加して

日野市は全国水環境マップ実行委員会が実施している全国一斉調査に参加しています。

この調査は全国規模で得られた結果を相互に比較して、身近な水環境の状態を評価できるようにしたものです。

今年、平成22年6月6日(日)でした。快晴に恵まれて、夏の始まりを予感させる蒸暑い日曜日でした。

最初は、滝合橋の下で川の水を採取しました。日曜日の午前中の土手はサイクリングをする方、マラソンをする方、静かにウォーキングを楽しんでいる方など様々な人達が土手の上を行き来しています。そんな中、黄色いバケツと温度計そして水質検査キットを手提げ袋の中に入れ、首にはストップウォッチをぶら下げて、河原の中を川の水を目指して歩いている私は、休日を楽しまれている方々にはどのようなに写ったことでしょうか。土手を降りていき、水面近くまでいくと川に黄色いバケ

ツを入れて水を採取します。バケツの中の水に持参した温度計を入れて水温を計ります。採取した水を検査キットのスポートを使って試薬の中に入れていきます。試薬が反応する時間は、当日の水温で決まります。検査キットの試薬の色の変り方により水質を判断するのですが、なかなかストップウォッチの時間の経過が待ち遠しくてたまりません。なんと典型的なせっかち人間なのかと少し悲しくなりました。この作業を4箇所を繰り返すわけです。場所によっては、車から降りて、川の水にたどり着くまでに河原をかたまり歩かなくてはならないところもありました。初めて、川の水を間近に上げしげと観察しましたが、同じ市内の川でも微妙に色や透視度が異なるものかと改めて実感しました。

来年はもっときれいな水質になってほしいものと願っています。

(K・A)